

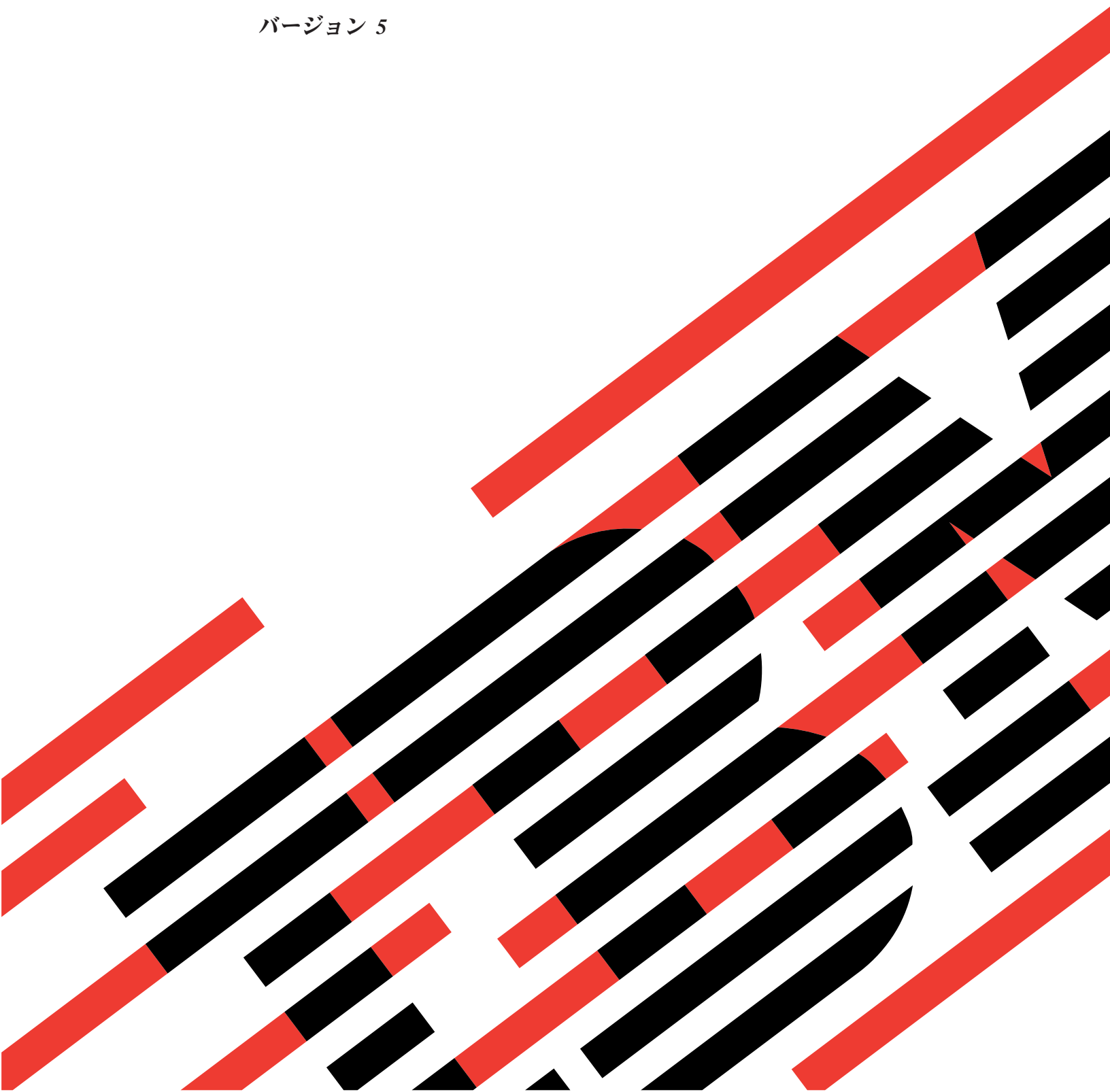
IBM

@server

iSeries

統合 xSeries サーバー
メモリー インストールの手引き

バージョン 5





@server

iSeries

統合 xSeries サーバー
メモリー インストールの手引き

バージョン 5

© Copyright International Business Machines Corporation 2000, 2003. All rights reserved.

© Copyright IBM Japan 2002

289x サーバー・メモリー・カードのインストール

まず最初に、次の説明の内容を把握してから作業を始めるようにしてください。この手順の中には、完了できないステップもあることを覚えておいてください。

本書の指示には、以下のものの追加方法が記載されています。

- フィーチャー 2895、2896、または 2897 サーバー・メモリーを個々に、2890、2891、または 2899 統合 xSeries サーバー (IXS) に追加する。
- フィーチャー 0446 および 0447 サーバー・メモリーを対にして、1892 統合 xSeries サーバー (IXS) に追加する。

本書の指示では、289x は、フィーチャー・コード 2890、2891、2892、または 2899 を指しています。

はじめる前に:

— 1. このフィーチャーは、ユーザー自身でインストールすることができます。業界用語を理解し、システムに関する多少の経験があるユーザーは、このフィーチャーをインストールすることができるはずですが、自分でインストールを行わない場合は、IBM® または正規販売業者にお問い合わせください。有料でフィーチャーのインストールを行います。

— 2. この手順では、以下の作業を行います。

- システム装置カバーを取り外す。
- 新しいハードウェアを取り付ける。
- カバーを取り付ける。
- 並行インストールを実施しない場合は、オペレーティング・システムの初期プログラム・ロード (IPL) を実施する。
- 新しいハードウェア構成を検査する。

非並行インストールを行う場合は、以下のことを行うための時間がさらに必要になります。

- ジョブの完了。
- システムのバックアップ。
- システムの IPL の実施。
- ハードウェア構成の検証。

— 3. これらの指示に示されている図は、実際のシステム装置とまったく同じであるとは限りません。ただし、作業を実行する手順は同じです。

— 4. オペレーティング・システムおよびライセンス・プログラムの最新バックアップが手元にあることを確認します。PTF を最後に適用した後でオペレーティング・システムおよびライセンス・プログラムのバックアップをとってあれば、そのバックアップでかまいません。

— 5. 部品が正しくなかったり、欠落している、あるいは外観上損傷がある場合には、以下にご連絡ください。

- IBM 特約店

- 購入元 (IBM Direct など)
 - IBM 営業担当員
 - 1-800-300-8751 (米国)
 - 1-507-253-5242 (全世界共通)
- __ 6. 新しいフィーチャーをインストールする前に、PTF 前提条件があるかどうかを確認してください。次の Web サイトにアクセスし、製品番号と OS/400[®] リリースを探し、前提条件をチェックしてください。
- <http://www-912.ibm.com/supporthome.nsf/document/10000051>
- 次に以下を実施して「Customer Install Features Prerequisites」に進んでください。
- a. 「**All Documents**」を選択します。
 - b. 「**Collapse**」を選択します。
 - c. 「**General Information**」を選択します。
 - d. 「**Offerings**」を選択します。
 - e. 「**Feature Prerequisites**」を選択します。
 - f. 「**Customer Install Features Prerequisites**」を選択します。
- __ 7. インストール中に不都合が生じた場合は、特約店またはサービス提供元に連絡してください。

統合 xSeries サーバーの位置

- __ 1. メモリー・カードを 270 システム装置の統合 xSeries サーバー (IXS) に取り付けますか？
 - __ はい: 次のステップに進みます。
 - __ いいえ: 10 ページの『5075 拡張タワーの IXS へのメモリーのインストール』に進みます。
- __ 2. iSeries 背面カバーを取り外します。背面カバーの取り外し方法については 18 ページの『背面カバーの取り外し』を参照してください。
- __ 3. 右サイド・カバー (後ろから見て) を取り外します。サイド・カバーの取り外し方法については 19 ページの『側面カバーの取り外し』を参照してください。
- __ 4. IXS カードをご覧ください。IXS はスロット C04 にあります。カード・スロットの位置については、22 ページの『270 システム装置または 5075 拡張タワーのカード位置』を参照してください。IXS カードはラッチで固定されていますか、それともねじで固定されていますか？
 - __ ラッチ: 次のステップに進みます。
 - __ ねじ: 6 ページの『メモリーを IXS に非並行インストールする (270 システム装置電源オフ)』に進みます。
- __ 5. メモリー・カードを IXS に並行インストールしますか (270 の電源をオンにして)？
 - はい: 次のステップに進みます。
 - いいえ: 6 ページの『メモリーを IXS に非並行インストールする (270 システム装置電源オフ)』に進みます。

メモリーを IXS に並行インストールする (270 システム装置電源オン)

- __ 1. iSeries の背面カバーを取り外していない場合は、ここで取り外します。背面カバーの取り外し方法については 18 ページの『背面カバーの取り外し』を参照してください。
- __ 2. 右サイド・カバー (後ろから見て) を取り外していない場合は、ここで取り外します。サイド・カバーの取り外し方法については 19 ページの『側面カバーの取り外し』を参照してください。
- __ 3. IXS をオフに変更:
 - __ a. コマンド行で **WRKCFGSTS** と入力し、「構成状況処理」画面に進みます。F4 を押します。
 - __ b. 「構成状況処理」画面において、***NWS** を「タイプ」フィールドに入力し、実行キーを 2 回押します。
 - __ c. 「構成状況処理」画面において、「オフへの構成変更」オプションを IXS の隣にある *Opt* 欄に入力し、実行キーを押します。
 - __ d. F12 を押して、メイン・メニューに戻ります。
- __ 4. 現行 IXS メモリーを検証します。
 - __ a. コマンド行で、**strsst** と入力し、実行キーを押します。
 - __ b. 「システム保守ツール (SST) のサインオン」画面で、**保守ツールのユーザー ID** および**保守ツールのパスワード**を入力します。
 - __ c. 「保守ツールの開始」を選択し、実行キーを押します。
 - __ d. 「ハードウェア保守管理機能」を選択し、実行キーを押します。
 - __ e. 「論理ハードウェア資源 (バス、IOP、制御装置...)」を選択し、実行キーを押します。
 - __ f. 「システム・バス資源」を選択し、実行キーを押します。
 - __ g. カーソルを使って、作業対象の 289x サーバー・カードを選択します。
 - __ h. **パッケージ資源関連** を 289x サーバー・カードの前にある *Opt* 欄に入力し、実行キーを押します。
 - __ i. 「論理資源と関連したパッケージ」画面で、カーソルを使って「**通信 IOP**」を選択します。
 - __ j. 「**関連論理資源**」オプションを *Opt* 欄に入力し、実行キーを押します。
 - __ k. 「**パッケージ資源と関連した論理資源**」画面で、カーソルを使って「**通信 IOA**」を選択します。
 - __ l. 「**明細の表示**」オプションを *Opt* 欄に入力し、実行キーを押します。
 - __ m. **IOA** にインストールされているメモリー (**MB**) を見て、289x に取り付けられている現行メモリー・サイズが正しいかどうか確認します。
 - __ n. F12 を 2 回押して「**論理資源と関連したパッケージ**」画面に戻ります。
 - __ o. カーソルで「**通信 IOP**」を選択します。
 - __ p. 「**並行保守**」オプションを選択し、実行キーを押します。

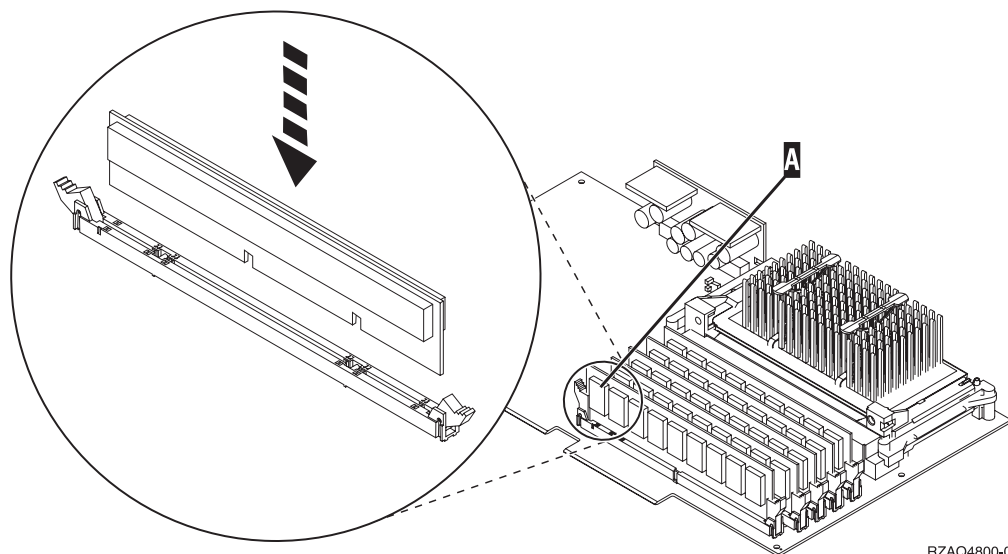
注: 「選択された資源は、指定したオプションが許可されていません」というメッセージが表示されたら、ご使用のシステム装置は IXS

に並行してメモリーを追加することはできません。 6 ページの『メモリーを IXS に非並行インストールする (270 システム装置電源オフ)』に進みます。

- __ q. カーソルで「**通信 IOP**」を選択します。
- __ r. 「**LED 明滅オフ/オン切り換え**」オプションを選択し、実行キーを押します。
選択したカード・スロットの LED が明滅します。
- __ s. 「**LED 明滅オフ/オン切り換え**」オプションを再び選択し、実行キーを押します。
選択したカード・スロットの LED が明滅を停止し、オンのままになります。
- __ t. カーソルは「**通信 IOP**」行に置いたまま、**F9** (ドメイン電源オフ) を押します。
- __ u. 「ハードウェア資源の並行保守」画面で、実行キーを押します。電源オフの完了を待ちます。次のメッセージが表示されます。
電源オフ完了。電源標識 (LED) を確認してください。

LED がオフの位置にあるときは、先に進んでも安全です。次のステップの実施中は、コンソールを「ハードウェア資源の並行保守」画面のままにしておきます。

- __ 5. IXS はスロット C04 にあります。カード・スロットの位置については、22 ページの『270 システム装置または 5075 拡張タワーのカード位置』を参照してください。
- __ 6. IXS に接続されているすべてのケーブルを取り外します。
- __ 7. アダプター・カードは壊れやすいので注意してください。**静電気防止バンドを使用して取り扱ってください。** 端を持って取り扱い、プリント回路部分には触れないでください。
ラッチを上に戻し、ラッチを手前に引いて、統合 xSeries サーバーを取り外します。金属レバーを圧縮しながら IXS をシステム装置から取り外します。
- __ 8. IXS は静電気防止面に置きます。
- __ 9. 289x メモリー・カードの入っているパッケージを探します。静電気防止パッケージからメモリー・カードを慎重に取り出します。
- __ 10. 1 つの IOP メモリー・カード **A** と 4 つのサーバー・メモリー・カード用の場所があります。289x サーバー・メモリー・カードを以下の手順によって IXS に取り付けます。
 - __ a. メモリー・カードを IXS カード上の次の使用可能コネクタとそろえます。
 - __ b. カードを下方に移動してコネクタ内の所定位置に固定します。メモリー・カードはコネクタに固定されるとき明確なクリック位置があります。



RZAQ4800-0

図 1. IXS 上のメモリー位置

- __ c. さらに取り付ける 289x メモリー・カードがある場合は、このステップを繰り返します。
- __ 11. IXS カードをシステム装置に取り付けます。カードが完全に接続されるまで、システム装置内のカード・ホルダーと合わせます。ラッチを内部および下方に移動し、カードを固定します。
- __ 12. カードから取り外したケーブルを再び接続します。
- __ 13. カバーを取り付け、装置を接続します。カバーの取り付けに関する詳細は、23 ページの『システム装置カバーの取り付け』を参照してください。
- __ 14. IXS の電源を入れます。
 - __ a. コンソール上のカーソルは通信 IOA の位置にあるはずです。
 - __ b. **F10** (ドメイン電源オン) を押し、実行キーを押して電源オンを確認します。

注: 「制御資源の処理」画面が表示されたら、「割り当て先」オプションを画面の各リソースについて選択します。次に実行キーを押し、電源オンの完了を待ちます。
 - __ c. 「ハードウェア資源の並行保守」画面において、**F8** を押してすべてのリソースについて電源状況がオンであることを確認します。
 - __ d. カーソルで「通信 IOP」を選択します。
 - __ e. 「関連論理資源」オプションを選択し、実行キーを押します。
 - __ f. カーソルで「通信 IOA」を選択します。
 - __ g. 「明細の表示」オプションを選択し、実行キーを押します。
 - __ h. 正しいメモリー・サイズが取り付けられていることを確認します。
- __ 15. IXS メモリー・テスト:
 - __ a. **F12** を 1 回押します。
 - __ b. 「確認」オプションを 289x IOA の隣に入力します。実行キーを押します。

- __ c. 「検査テスト」画面で実行キーを押します。
- __ d. 「ハードウェア・メモリー・テスト」オプションを選択します。実行キーを押します。

注: このメモリー・テストは、テストされるメモリー 1GB あたり約 2 分かかります。

- __ e. 「テストの実行回数」画面で実行キーを押します。
- __ f. このテストに失敗した場合は、メモリーが正しく取り付けられているかどうか確認してください。テストの失敗が続く場合は、特約店またはサービス提供元に連絡してください。

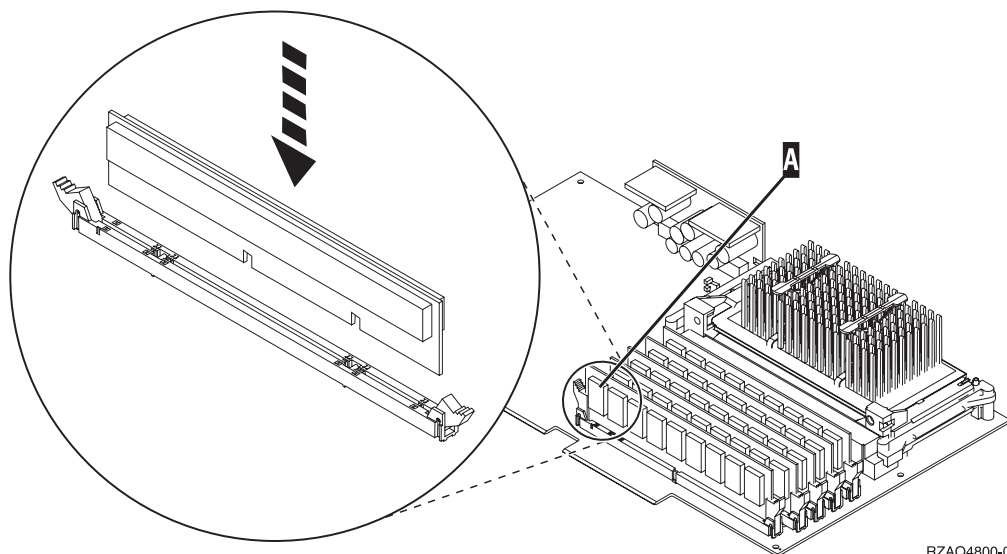
インストールの完了

- __ 1. メモリー・テストが完了すると、「検査テストの結果」画面に「テストは正常に完了した。」と表示されます。実行キーを押します。
- __ 2. 「検査テスト」画面で実行キーを押します。
- __ 3. F3 を 3 回押し、実行キーを押して「メインメニュー」に戻ります。
- __ 4. IXS をオンに変更:
 - __ a. コマンド行で WRKCFGSTS と入力し、「構成状況処理」画面に進みます。F4 を押します。
 - __ b. 「構成状況処理」画面において、*NWS を「タイプ」フィールドに入力し、実行キーを 2 回押します。
 - __ c. 「構成状況処理」画面において、「オンへの構成変更」オプションを IXS の隣にある Opt 欄に入力し、実行キーを押します。
 - __ d. F3 を押して終了します。
- __ 5. これでフィーチャーのアップグレードは完了です。
- __ 6. カードを作動可能にする方法については、iSeries Information Center を参照してください。
- __ 7. 統合 xSeries サーバーへのメモリーのインストールを完了しました。

メモリーを IXS に非並行インストールする (270 システム装置電源オフ)

- __ 1. 以下のステップを実施して IXS 上の現行メモリーを確認します。
 - __ a. コマンド行で、strsst と入力し、実行キーを押します。
 - __ b. 「システム保守ツール (SST) のサインオン」画面で、保守ツールのユーザー ID および保守ツールのパスワードを入力します。
 - __ c. 「保守ツールの開始」を選択し、実行キーを押します。
 - __ d. 「ハードウェア保守管理機能」を選択し、実行キーを押します。
 - __ e. 「論理ハードウェア資源 (バス、IOP、制御装置、...)」を選択し、実行キーを押します。
 - __ f. 「システム・バス資源」を選択し、実行キーを押します。
 - __ g. カーソルを使って、作業対象の 289x 通信 IOP を選択します。
 - __ h. 「パッケージ資源関連」オプションを 289x IOP カードの前にある Opt 欄に入力し、実行キーを押します。

- __ i. 「論理資源と関連したパッケージ」画面で、カーソルを使って「通信 IOP」を選択します。
 - __ j. 「関連論理資源」オプションを *Opt* 欄に入力し、実行キーを押します。
 - __ k. 「パッケージ資源と関連した論理資源」画面で、カーソルを使って「通信 IOA」を選択します。
 - __ l. 「明細の表示」オプションを *Opt* 欄に入力し、実行キーを押します。
 - __ m. IOA にインストールされているメモリー (MB) を見て、289x に取り付けられている現行メモリー・サイズが正しいかどうか確認します。
 - __ n. F3 を 3 回押し、実行キーを押して「メインメニュー」に戻ります。
- __ 2. iSeries システム装置の電源を切ります。システムの電源オフの詳細については、17 ページの『システム装置の電源オフ』を参照してください。
 - __ 3. システム装置の背面カバーを取り外していない場合は、ここで取り外します。背面カバーの取り外しについて詳しくは、18 ページの『背面カバーの取り外し』を参照してください。
 - __ 4. システム装置の右サイド・カバー (後ろから見て) を取り外していない場合は、ここで取り外します。サイド・カバーの取り外しについて詳しくは、19 ページの『側面カバーの取り外し』を参照してください。
 - __ 5. IXS はスロット C04 にあります。カード・スロットの位置については、22 ページの『270 システム装置または 5075 拡張タワーのカード位置』を参照してください。
 - __ 6. カードに接続されているすべてのケーブルを取り外します。
 - __ 7. アダプター・カードは壊れやすいので注意してください。静電気防止バンドを使用して取り扱ってください。端を持って取り扱い、プリント回路部分には触れないでください。
ラッチを上に戻し、ラッチを手前に引いて、統合 xSeries サーバーを取り外します。金属レバーを圧縮しながら IXS をシステム装置から取り外します。アダプター・カードを所定位置に保持しているねじを外さなければならぬカードもあります。
 - __ 8. IXS は静電気防止面に置きます。
 - __ 9. 289x サーバー・メモリー・カードの入っているパッケージを探します。静電気防止パッケージからメモリー・カードを慎重に取り出します。
 - __ 10. 1 つの IOP メモリー・カード **A** と 4 つのサーバー・メモリー・カード用の場所があります。289x サーバー・メモリー・カードを以下の手順によって IXS に取り付けます。
 - __ a. メモリー・カードを IXS カード上の次の使用可能コネクタとそろえます。
 - __ b. カードを下方に移動してコネクタ内の所定位置に固定します。メモリー・カードはコネクタに固定されるとき明確なクリック位置があります。



RZAQ4800-0

図2. IXS 上のメモリー位置

- __ c. さらに取り付ける 289x メモリー・カードがある場合は、このステップを繰り返します。
- __ 11. IXS カードをシステム装置に取り付けます。カードが完全に接続されるまで、システム装置内のカード・ホルダーと合わせます。ラッチを内部および下方に移動し、カードを固定します。
- __ 12. IXS から取り外したケーブルを再び接続します。

インストールの完了

- __ 1. カバーを取り付け、システム装置とデバイスを接続します。詳細については、23 ページの『システム装置カバーの取り付け』を参照してください。
- __ 2. システム装置の制御パネルの「機能/データ」画面を見てください。「機能/データ」画面に **01 B N V=S** と表示されていますか？
 - __ はい: 次のステップに進みます。
 - __ いいえ: 以下の作業を行います。
 - __ a. 制御パネルの扉を開きます。
 - __ b. 「機能/データ」画面に **02** が表示されるまで、「増/減」押しボタンを押します。
 - __ c. 制御パネルの「機能開始」押しボタンを押します。
 - __ d. 「機能/データ」画面に **B** が表示されるまで、「増/減」押しボタンを押します。
 - __ e. 制御パネルの「機能開始」押しボタンを押します。
 - __ f. 「機能/データ」画面に **N** が表示されるまで、「増/減」押しボタンを押します。
 - __ g. 制御パネルの「機能開始」押しボタンを押します。
 - __ h. 「機能/データ」画面に **S** が表示されるまで、「増/減」押しボタンを押します。
 - __ i. 制御パネルの「機能開始」押しボタンを押します。

- __j. 「機能/データ」画面に **01** が表示されるまで、「増/減」押しボタンを押します。
- __k. 制御パネルの「機能開始」押しボタンを押します。
「機能/データ」画面に **01 B N S** と表示されるはずですが。
- __l. ステップ 3 に進みます。
- __ 3. コンソールであるワークステーションまたは PC の電源をオンにします。
- __ 4. システム装置の「電源」ボタンを押します。「電源オン」ライトが点灯します。

注: システム装置の電源がオンになるまでに約 10 秒かかります。

- __ 5. システム装置にサインオンします。保守権限をもっているか確認してください。
- __ 6. 次の手順でアダプター・カードの構成を確認します。
 - __ a. コマンド行で、**strsst** と入力します。実行キーを押します。
 - __ b. 「システム保守ツール (SST) のサインオン」画面で、**保守ツールのユーザー ID および保守ツールのパスワード**を入力します。
 - __ c. 「**保守ツールの開始**」オプションを選択し、実行キーを押します。
 - __ d. 「**ハードウェア保守管理機能**」オプションを選択し、実行キーを押します。
 - __ e. 「**パッケージ・ハードウェア資源 (システム、フレーム、カード...)**」オプションを選択し、実行キーを押します。
 - __ f. **9** をシステム装置 の前に入力し、実行キーを押します。
289x カードがリストにない場合は、そのカードが適切に取り付けられているか確認してください。
 - __ g. 「**ハードウェア・パッケージ資源**」メニューで、**8** を通信 IOP 289x の隣にある *Opt* 欄に入力します。これはカードのタイプ・型式、たとえば 2890-001 となります。実行キーを押します。
 - __ h. 「**パッケージ資源と関連した論理資源**」メニューが表示されたら、**5** を通信 IOA の隣にある *Opt* 欄に入力します。実行キーを押します。
 - __ i. 「**通信ハードウェア資源の明細**」メニューが表示されたら、「IOA にインストールされているメモリー (MB)」の行を見てください。番号は、289x 統合 xSeries サーバーに取り付けたメモリー・サイズを反映しています。反映されていない場合は、メモリー・カードが正しく取り付けられているか確認してください。
 - __ j. IXS メモリー・テスト:
 - __ 1) **F12** を 1 回押します。
 - __ 2) 「**確認**」オプションを 289x IOA の隣に入力します。実行キーを押します。
 - __ 3) 「**検査テスト**」画面で実行キーを押します。
 - __ 4) 「**ハードウェア・メモリー・テスト**」オプションを選択します。実行キーを押します。

注: このメモリー・テストは、テストされるメモリー 1GB あたり約 2 分かかります。

__ 5) 「テストの実行回数」画面で実行キーを押します。

注: このテストに失敗した場合は、メモリーが正しく取り付けられているかどうか確認してください。テストの失敗が続く場合は、特約店またはサービス提供元に連絡してください。

- __ 7. メモリー・テストが完了すると、「検査テストの結果」画面に「テストは正常に完了した。」と表示されます。実行キーを押します。
- __ 8. 「検査テスト」画面で実行キーを押します。
- __ 9. F3 を 3 回押し、実行キーを押して「メインメニュー」に戻ります。
- __ 10. IXS をオンに変更:
 - __ a. コマンド行で WRKCFGSTS と入力し、「構成状況処理」画面に進みます。F4 を押します。
 - __ b. 「構成状況処理」画面において、*NWS を「タイプ」フィールドに入力し、実行キーを 2 回押します。
 - __ c. 「構成状況処理」画面において、「オンへの構成変更」オプションを IXS の隣にある Opt 欄に入力し、実行キーを押します。
 - __ d. F3 を押して終了します。
- __ 11. これでフィーチャーのアップグレードは完了です。
- __ 12. カードを作動可能にする方法については、iSeries Information Center を参照してください。
- __ 13. 統合 xSeries サーバーへのメモリーのインストールを完了しました。

5075 拡張タワーの IXS へのメモリーのインストール

- __ 1. メモリー・カードを IXS にインストールしますか (270 および 5075 の電源オン)?
 - __ はい: 次の指示に進みます。
 - __ いいえ: 14 ページの『メモリーを IXS に非並行インストールする (システム装置および拡張装置電源オフ)』に進みます。

メモリーを IXS に並行インストールする (システム装置および拡張装置電源オン)

- __ 1. 5075 拡張タワーの左サイド・カバーを取り外します。カバーの取り外しについて詳しくは、21 ページの『5075 背面カバーと側面カバーの取り外し』を参照してください。
- __ 2. IXS をオフに変更:
 - __ a. コマンド行で WRKCFGSTS と入力し、「構成状況処理」画面に進みます。F4 を押します。
 - __ b. 「構成状況処理」画面において、*NWS を「タイプ」フィールドに入力し、実行キーを 2 回押します。
 - __ c. 「構成状況処理」画面において、「オフへの構成変更」オプションを IXS の隣にある Opt 欄に入力し、実行キーを押します。
 - __ d. F12 を押して終了します。
- __ 3. 現行 IXS メモリーを検証します。

- __ a. コマンド行で、**strsst** と入力し、実行キーを押します。
 - __ b. 「システム保守ツール (SST) のサインオン」画面で、**保守ツールのユーザー ID および保守ツールのパスワード**を入力します。
 - __ c. 「**保守ツールの開始**」オプションを選択し、実行キーを押します。
 - __ d. 「**ハードウェア保守管理機能**」を選択し、実行キーを押します。
 - __ e. 「**パッケージ・ハードウェア資源 (システム、フレーム、カード...)**」オプションを選択します。実行キーを押します。
 - __ f. 「**パッケージに含まれたハードウェア**」オプションを、メモリーを追加する 289x を含むシステム拡張タワーの前にある *Opt* 欄に入力します。実行キーを押します。
 - __ g. カーソルを使って、作業対象の 289x 通信 IOP カードを選択します。
 - __ h. 「**関連論理資源**」オプションを 289x IOP カードの前にある *Opt* 欄に入力し、実行キーを押します。
 - __ i. 「**パッケージ資源と関連した論理資源**」画面で、カーソルを使って「**通信 IOA**」を選択します。
 - __ j. 「**明細の表示**」オプションを *Opt* 欄に入力し、実行キーを押します。
 - __ k. *IOA* にインストールされているメモリー (*MB*) を見て、289x に取り付けられている現行メモリー・サイズが正しいかどうか確認します。
 - __ l. F12 を 2 回押して「**ハードウェア・パッケージ資源**」画面に戻ります。
- __ 4. IXS の位置を確認します。
- __ a. カーソルで「**289x 通信 IOP**」を選択します。
 - __ b. 「**並行保守**」オプションを選択し、実行キーを押します。
 - __ c. カーソルで「**通信 IOP**」を選択します。
 - __ d. 「**LED 明滅オフ/オン切り換え**」オプションを選択し、実行キーを押します。
選択したカード・スロットの LED が明滅します。
 - __ e. 「**LED 明滅オフ/オン切り換え**」オプションを再び選択し、実行キーを押します。
選択したカード・スロットの LED が明滅を停止し、オンのままになります。
- __ 5. カーソルは「**通信 IOP**」行に置いたまま、**F9** (ドメイン電源オフ) を押します。
- __ 6. 構成画面で実行キーを押します。電源オフの完了を待ちます。次のメッセージが表示されます。
- 電源オフ完了。電源標識 (LED) を確認してください。
- 選択したカード・スロットの LED がオフのときは、先に進んでも安全です。次のステップの実施中は、コンソールを「**ハードウェア資源の並行保守**」画面のままにしておきます。
- __ 7. アダプター・カードは壊れやすいので注意してください。**静電気防止用リストバンド**を使用して取り扱ってください。端を持って取り扱い、プリント回路部分には触れないでください。

統合 xSeries サーバー (IXS) に接続されているすべてのケーブルを取り外します。

ラッチを上に戻し、ラッチを手前に引いて、IXS を取り外します。IXS の左端にあるラッチを圧縮しながら、カードを手前に引き出します。

- __ 8. IXS は静電気防止面に置きます。
- __ 9. 289x メモリー・カードの入っているパッケージを探します。静電気防止パッケージからメモリー・カードを慎重に取り出します。
- __ 10. 1 つの IOP メモリー・カード **A** と 4 つのサーバー・メモリー・カード用の場所があります。289x サーバー・メモリー・カードを以下の手順によって IXS に取り付けます。
 - __ a. メモリー・カードを IXS カード上の次の使用可能コネクタとそろえます。
 - __ b. カードを下方に移動してコネクタ内の所定位置に固定します。メモリー・カードはコネクタに固定されると明確なクリック位置があります。

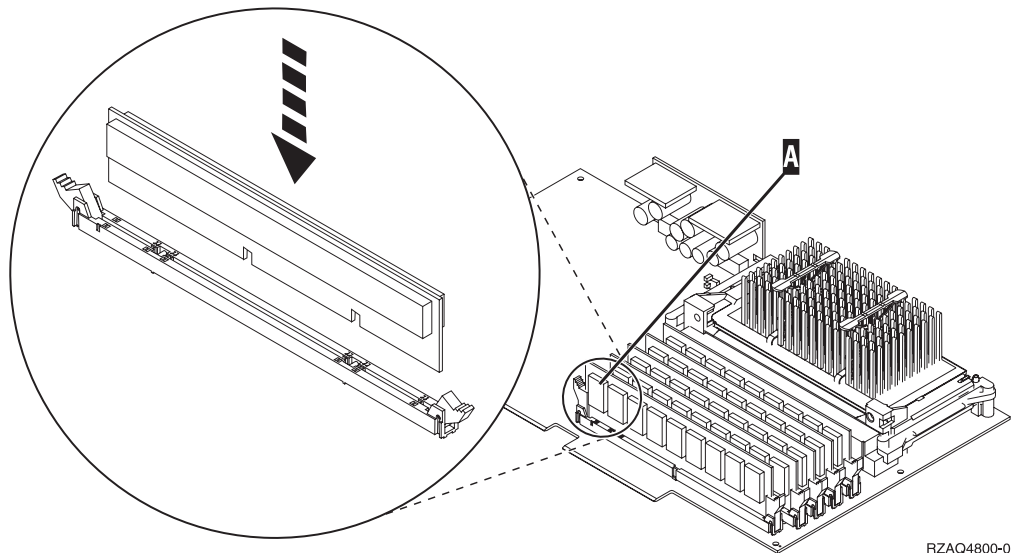


図3. IXS 上のメモリー位置

- __ c. さらに取り付ける 289x メモリー・カードがある場合は、このステップを繰り返します。
- __ 11. IXS カードをシステム装置に取り付けます。
- __ 12. IXS カードから取り外したケーブルを再び接続します。
- __ 13. カバーを取り付ける。詳細については、23 ページの『システム装置カバーの取り付け』を参照してください。
- __ 14. IXS の電源を入れます。
 - __ a. コンソール上のカーソルは通信 IOA の位置にあるはずですが。
 - __ b. **F10** (ドメイン電源オン) を押し、実行キーを押して電源オンを確認します。

注: 「制御資源の処理」画面が表示されたら、「割り当て先」オプションを画面の各リソースについて選択します。次に実行キーを押し、電源オンの完了を待ちます。

- __ c. 「ハードウェア資源の並行保守」画面において、**F8** を押してすべてのリソースについて電源状況がオンであることを確認します。
- __ d. カーソルで「通信 IOP」を選択します。
- __ e. 「関連論理資源」オプションを入力し、実行キーを押します。
- __ f. カーソルで「通信 IOA」を選択します。
- __ g. 「明細の表示」オプションを入力し、実行キーを押します。
- __ h. 正しいメモリー・サイズが取り付けられていることを確認します。
- __ i. IXS メモリー・テスト:
 - __ 1) **F12** を 1 回押します。
 - __ 2) 「確認」オプションを 289x IOA の隣に入力します。実行キーを押します。
 - __ 3) 「検査テスト」画面で実行キーを押します。
 - __ 4) 「ハードウェア・メモリー・テスト」オプションを選択します。実行キーを押します。

注: このメモリー・テストは、テストされるメモリー 1GB あたり約 2 分かかります。

- __ 5) 「テストの実行回数」画面で実行キーを押します。

注: このテストに失敗した場合は、メモリーが正しく取り付けられているかどうか確認してください。テストの失敗が続く場合は、特約店またはサービス提供元に連絡してください。

インストールの完了

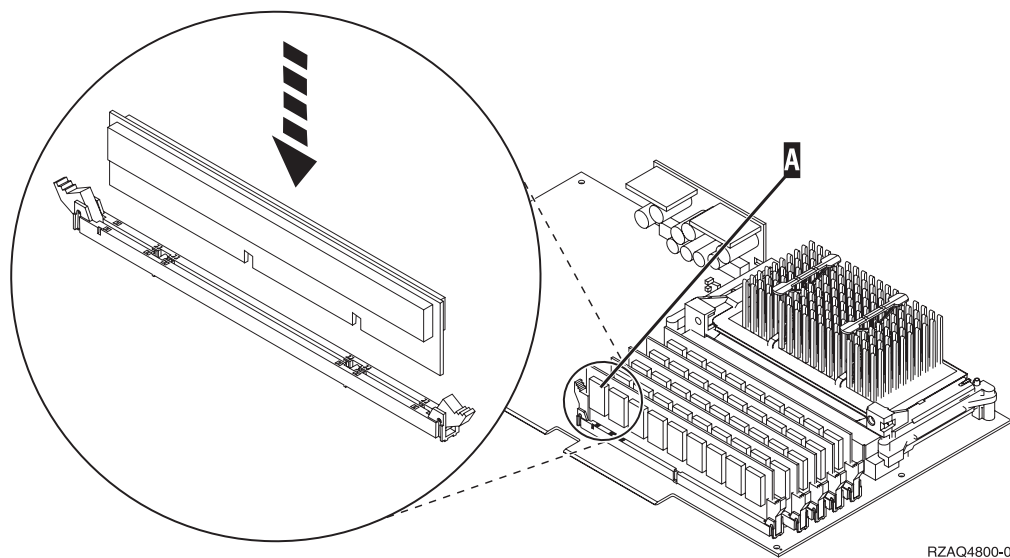
- __ 1. メモリー・テストが完了すると、「検査テストの結果」画面に「テストは正常に完了した。」と表示されます。実行キーを押します。
- __ 2. 「検査テスト」画面で実行キーを押します。
- __ 3. **F3** を 3 回押し、実行キーを押して「メインメニュー」に戻ります。
- __ 4. IXS をオンに変更:
 - __ a. コマンド行で WRKCFGSTS と入力し、「構成状況処理」画面に進みます。**F4** を押します。
 - __ b. 「構成状況処理」画面において、***NWS** を「タイプ」フィールドに入力し、実行キーを 2 回押します。
 - __ c. 「構成状況処理」画面において、「オンへの構成変更」オプションを **IXS** の隣にある *Opt* 欄に入力し、実行キーを押します。
 - __ d. **F3** を押して終了します。
- __ 5. これでフィーチャーのアップグレードは完了です。
- __ 6. カードを作動可能にする方法については、iSeries Information Center を参照してください。
- __ 7. 統合 xSeries サーバーへのメモリーのインストールを完了しました。

メモリーを IXS に非並行インストールする (システム装置および拡張装置電源オフ)

- ___ 1. 以下のステップを実施して IXS 上の現行メモリーを確認します。
 - ___ a. コマンド行で、**strsst** と入力し、実行キーを押します。
 - ___ b. 「システム保守ツール (SST) のサインオン」画面で、**保守ツールのユーザー ID および保守ツールのパスワード**を入力します。
 - ___ c. 「**保守ツールの開始**」オプションを選択し、実行キーを押します。
 - ___ d. 「**ハードウェア保守管理機能**」を選択し、実行キーを押します。
 - ___ e. 「**パッケージ・ハードウェア資源 (システム、フレーム、カード...)**」オプションを選択します。実行キーを押します。
 - ___ f. 「**パッケージに含まれたハードウェア**」オプションを、メモリーを追加する 289x を含むシステム拡張タワーの前にある *Opt* 欄に入力します。実行キーを押します。
 - ___ g. カーソルを使って、作業対象の 289x 通信 IOP カードを選択します。
 - ___ h. 「**関連論理資源**」オプションを 289x IOP カードの前にある *Opt* 欄に入力し、実行キーを押します。
 - ___ i. 「**パッケージ資源と関連した論理資源**」画面で、カーソルを使って「通信 IOA」を選択します。
 - ___ j. 「**明細の表示**」オプションを *Opt* 欄に入力し、実行キーを押します。
 - ___ k. IOA にインストールされているメモリー (MB) を見て、289x に取り付けられている現行メモリー・サイズが正しいかどうか確認します。
 - ___ l. F3 を 3 回押し、実行キーを押して終了します。
- ___ 2. システム装置の電源を切ります。システムの電源オフの詳細については、17 ページの『システム装置の電源オフ』を参照してください。
- ___ 3. 5075 拡張タワーの左サイド・カバーを取り外します。カバーの取り外しについて詳しくは、21 ページの『5075 背面カバーと側面カバーの取り外し』を参照してください。
- ___ 4. 289x IXS はスロット位置を 2 個使用します。IXS カードを 2 枚 5075 拡張タワーに取り付けてあるかもしれません。IXS は C02 (C03 は空) または C05 (C06 は空) に取り付けられます。カード・スロットの位置については、22 ページの『270 システム装置または 5075 拡張タワーのカード位置』を参照してください。
- ___ 5. ケーブルを IXS カード受容メモリーから取り外します。
- ___ 6. アダプター・カードは壊れやすいので注意してください。**静電気防止バンド**を使用して取り扱ってください。端を持って取り扱い、プリント回路部分には触れないでください。

ラッチを上に戻し、ラッチを手前に引いて、統合 xSeries サーバーを取り外します。金属レバーを圧縮しながら IXS をシステム装置から取り外します。
- ___ 7. IXS は静電気防止面に置きます。
- ___ 8. 289x メモリー・カードの入っているパッケージを探します。静電気防止パッケージからメモリー・カードを慎重に取り出します。

- __ 9. 1 つの IOP メモリー・カード **A** と 4 つのサーバー・メモリー・カード用の場所があります。 289x サーバー・メモリー・カードを以下の手順によって IXS に取り付けます。
 - __ a. メモリー・カードを IXS カード上の次の使用可能コネクタとそろえます。
 - __ b. カードを下方に移動してコネクタ内の所定位置に固定します。メモリー・カードはコネクタに固定されるとき明確なクリック位置があります。



RZAQ4800-0

図4. IXS 上のメモリー位置

- __ c. さらに取り付ける 289x メモリー・カードがある場合は、このステップを繰り返します。
- __ 10. IXS カードをシステム装置に取り付けます。
- __ 11. IXS から取り外したケーブルを再び接続します。

インストールの完了

- __ 1. カバーを取り付け、システム装置とデバイスを接続します。詳細については、23 ページの『システム装置カバーの取り付け』を参照してください。
- __ 2. システム装置の制御パネルの「機能/データ」画面を見てください。「機能/データ」画面に **01 B N V=S** と表示されていますか？
 - __ はい: 次のステップに進みます。
 - __ いいえ: 以下の作業を行います。
 - __ a. 「機能/データ」画面に **02** が表示されるまで、「増/減」押しボタンを押します。
 - __ b. 制御パネルの「機能開始」押しボタンを押します。
 - __ c. 「機能/データ」画面に **B** が表示されるまで、「増/減」押しボタンを押します。
 - __ d. 制御パネルの「機能開始」押しボタンを押します。

- __ e. 「機能/データ」画面に **N** が表示されるまで、「増/減」押しボタンを押します。
- __ f. 制御パネルの「機能開始」押しボタンを押します。
- __ g. 「機能/データ」画面に **S** が表示されるまで、「増/減」押しボタンを押します。
- __ h. 制御パネルの「機能開始」押しボタンを押します。
- __ i. 「機能/データ」画面に **01** が表示されるまで、「増/減」押しボタンを押します。
- __ j. 制御パネルの「機能開始」押しボタンを押します。
「機能/データ」画面に **01 B N S** と表示されるはずです。
- __ k. ステップ 3 に進みます。

- __ 3. コンソールであるワークステーションまたは PC の電源をオンにします。
- __ 4. システム装置の「電源」ボタンを押します。「電源オン」ライトが点灯します。

注: システム装置の電源がオンになるまでに約 10 秒かかります。システムに電源を入れてから IPL が完了するまでは、約 5 ~ 20 分かかります。

- __ 5. システム装置にサインオンします。保守権限をもっているか確認してください。
- __ 6. 次の手順でアダプター・カードの構成を確認します。
 - __ a. コマンド行で、**strsst** と入力します。実行キーを押します。
 - __ b. 「システム保守ツール (SST) のサインオン」画面で、**保守ツールのユーザー ID および保守ツールのパスワード**を入力します。
 - __ c. 「**保守ツールの開始**」オプションを選択し、実行キーを押します。
 - __ d. 「**ハードウェア保守管理機能**」オプションを選択し、実行キーを押します。
 - __ e. 「**パッケージ・ハードウェア資源 (システム、フレーム、カード...)**」オプションを選択し、実行キーを押します。
 - __ f. **9** をシステム装置 またはシステム拡張装置 の前に入力し、実行キーを押します。
アダプター・カードがリストにない場合は、そのカードが適切に取り付けられているか確認してください。
 - __ g. 「**ハードウェア・パッケージ資源**」メニューで、**8** を通信 **IOP 289x** の隣にある **Opt** 欄に入力します。これはカードのタイプ-型式、たとえば **2890-001** となります。実行キーを押します。
 - __ h. 「**パッケージ資源と関連した論理資源**」メニューが表示されたら、**5** を通信 **IOA** の隣にある **Opt** 欄に入力します。実行キーを押します。
 - __ i. 「**通信ハードウェア資源の明細**」メニューが表示されたら、「**IOA にインストールされているメモリー (MB)**」の行を見てください。番号は、**289x 統合 xSeries** サーバーに取り付けたメモリー・サイズを反映しています。反映されていない場合は、メモリー・カードが正しく取り付けられているか確認してください。
 - __ j. **IXS メモリー・テスト:**

- __ 1) **F12** を 1 回押します。
- __ 2) 「**確認**」オプションを 289x IOA の隣に入力します。実行キーを押します。
- __ 3) 「**検査テスト**」画面で実行キーを押します。
- __ 4) 「**ハードウェア・メモリー・テスト**」オプションを選択します。実行キーを押します。

注: このメモリー・テストは、テストされるメモリー 1GB あたり約 2 分かかります。

- __ 5) 「**テストの実行回数**」画面で実行キーを押します。

注: このテストに失敗した場合は、メモリーが正しく取り付けられているかどうか確認してください。テストの失敗が続く場合は、特約店またはサービス提供元に連絡してください。

- __ 7. メモリー・テストが完了すると、「**検査テストの結果**」画面に「**テストは正常に完了した。**」と表示されます。実行キーを押します。
- __ 8. 「**検査テスト**」画面で実行キーを押します。
- __ 9. **F3** を 3 回押し、実行キーを押して「**メインメニュー**」に戻ります。
- __ 10. **IXS** をオンに変更:
 - __ a. コマンド行で **WRKCFGSTS** と入力し、「**構成状況処理**」画面に進みます。**F4** を押します。
 - __ b. 「**構成状況処理**」画面において、***NWS** を「**タイプ**」フィールドに入力し、実行キーを 2 回押します。
 - __ c. 「**構成状況処理**」画面において、「**オンへの構成変更**」オプションを **IXS** の隣にある **Opt** 欄に入力し、実行キーを押します。
 - __ d. **F3** を押して終了します。
- __ 11. これでフィーチャーのアップグレードは完了です。
- __ 12. カードを作動可能にする方法については、**iSeries Information Center** を参照してください。
- __ 13. 統合 xSeries サーバーへのメモリーのインストールを完了しました。

iSeries の電源の切り方、カバーの取り外し方、カード位置の探し方

このセクションでは iSeries の電源オフの方法とカバーの外し方について説明します。

システム装置の電源オフ

- __ 1. すべてのジョブが完了していることを確認します。
- __ 2. すべてのジョブが完了したら、コマンド行に **pwrdownsys *immed** と入力して、実行キーを押します。

注: インストール中に不都合が生じた場合は、特約店またはサービス提供元に連絡してください。

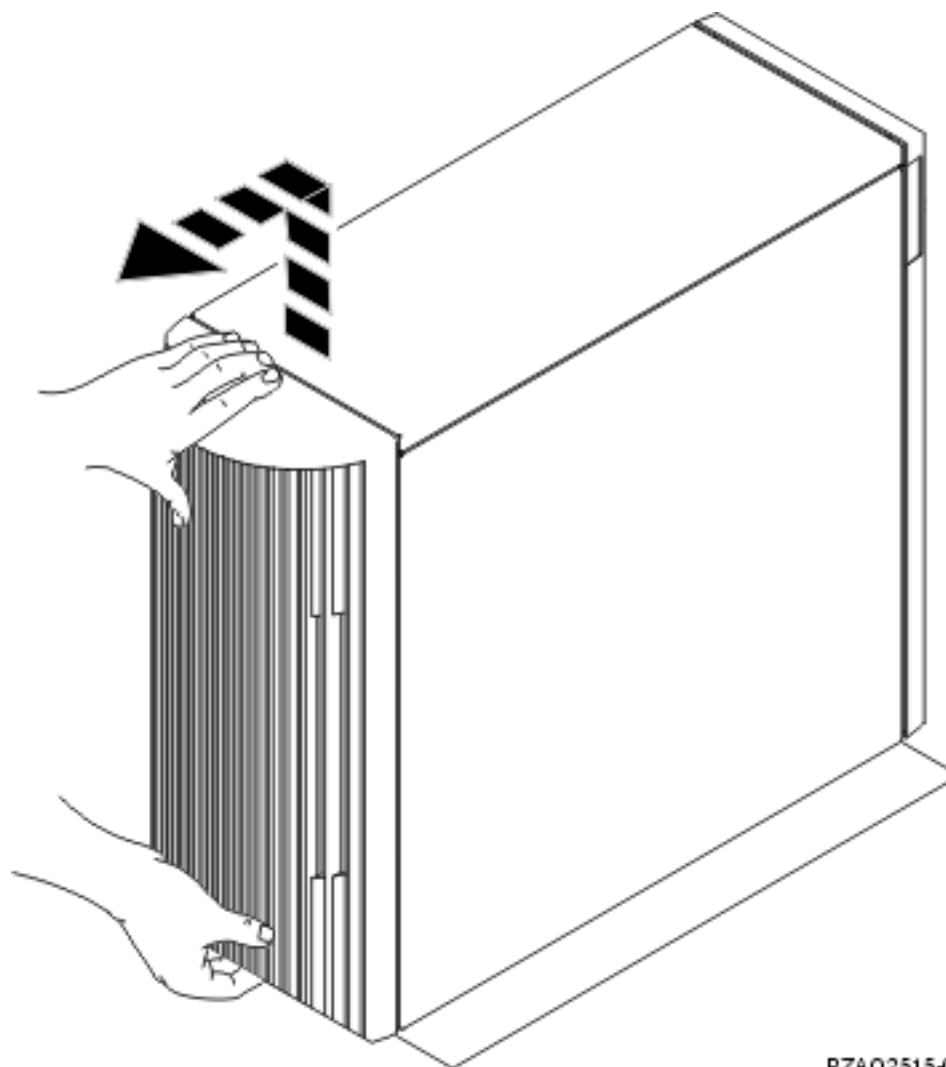
- __ 3. システム装置の電源が完全に遮断されたら、すべての PC をシステム装置から外します。システム装置に接続されているすべての装置 (印刷装置や表示装置など) の電源をオフにします。
- __ 4. すべての電源コード・プラグ (印刷装置や表示装置などの) を電源コンセントから取り外します。
- __ 5. システム装置の電源コード・プラグおよび接続されている拡張機構の電源コード・プラグを電源コンセントから取り外します。
- __ 6. システム装置カバーの取り外しについては、『背面カバーの取り外し』を参照してください。
- __ 7. 静電気の放電により装置が損傷しないように、使い捨てリスト・バンドを着用します。 フォイルの粘着側を、装置のフレームの未塗装面に取り付けます。

注:

- a. リスト・バンドなしで使用する場合と同じ予防措置を行います。 2209 使い捨てリスト・バンドは、静電気を抑制するためのものです。このバンドを着用したからといって、電気機器の使用時または作業時の感電の危険が増えることも、減ることもありません。
- b. リスト・バンドを広げる時は、末端に付いている銅フォイルの裏打ちシールを取り除きます。
- c. 銅フォイルを、装置のフレームの露出した、塗装されていない金属面に貼り付けます (アース)。

背面カバーの取り外し

- __ 1. システム装置背面カバーは、カバーの下部近くを持ち、持ち上げて取り外します。



RZAQ2515-0

図5. システム装置背面カバーの取り外し

側面カバーの取り外し

__ 1. ラックに装置がありますか？

いいえ:

ステップ 2 (19 ページ) に進みます。

はい: ステップ 3 (21 ページ) に進みます。

__ 2. (背面から見て) 右側面カバーは、つまみねじを緩め、カバーが止まるまで背面側に押し込んで取り外します。カバーを引き出します。

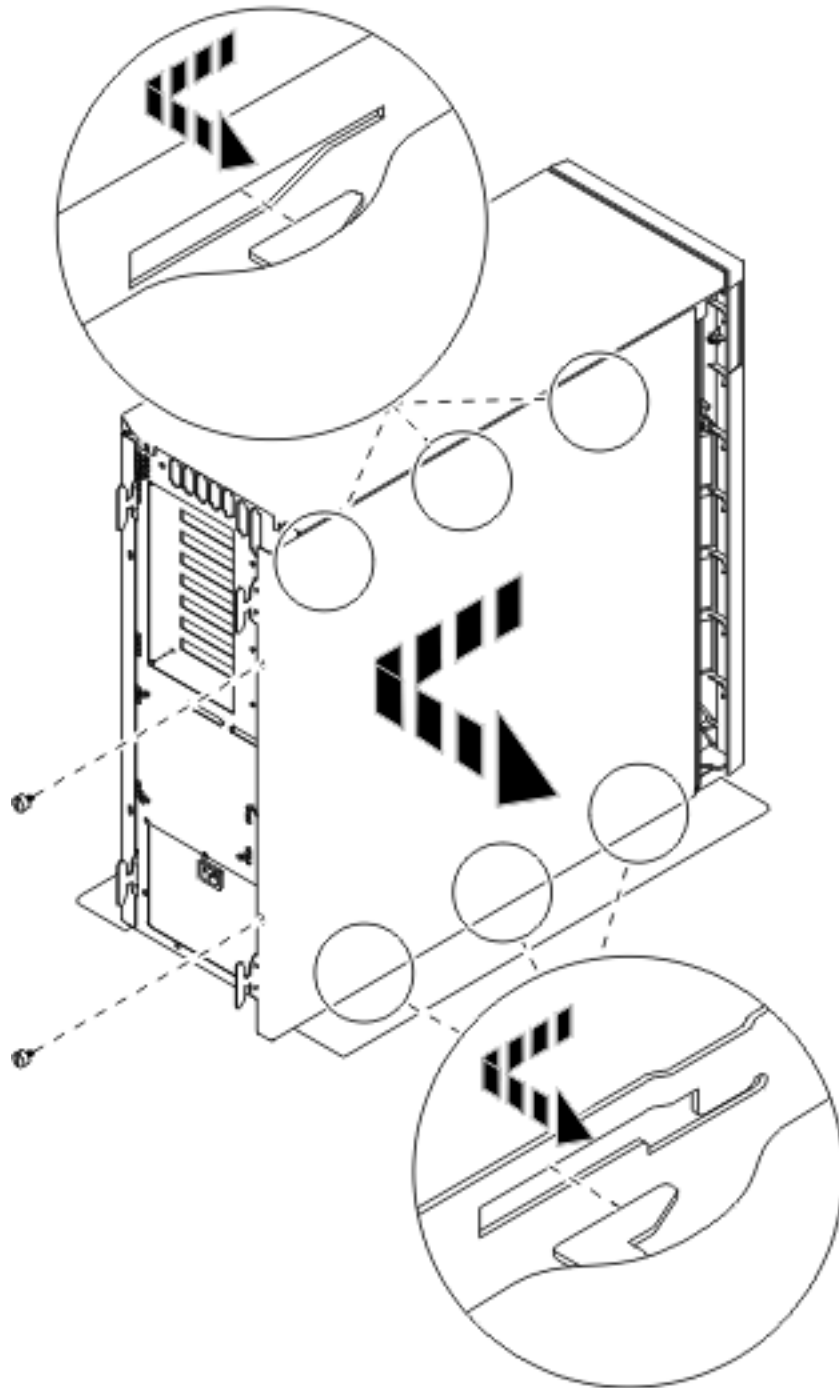
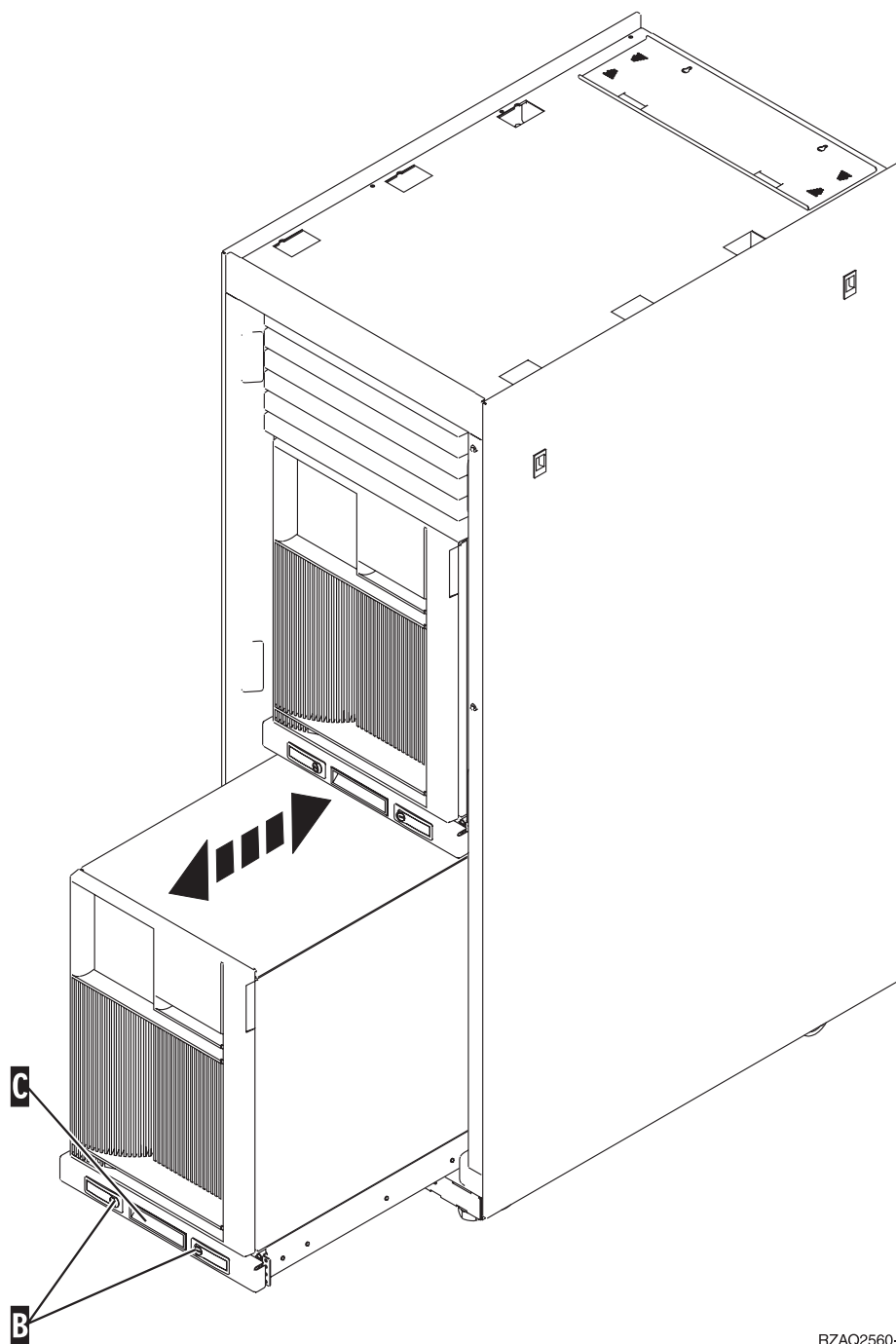


図6. システム装置側面カバーの取り外し

- __3. ラッチ **B** を押し、ハンドル **C** を使ってサーバーを引き出します。

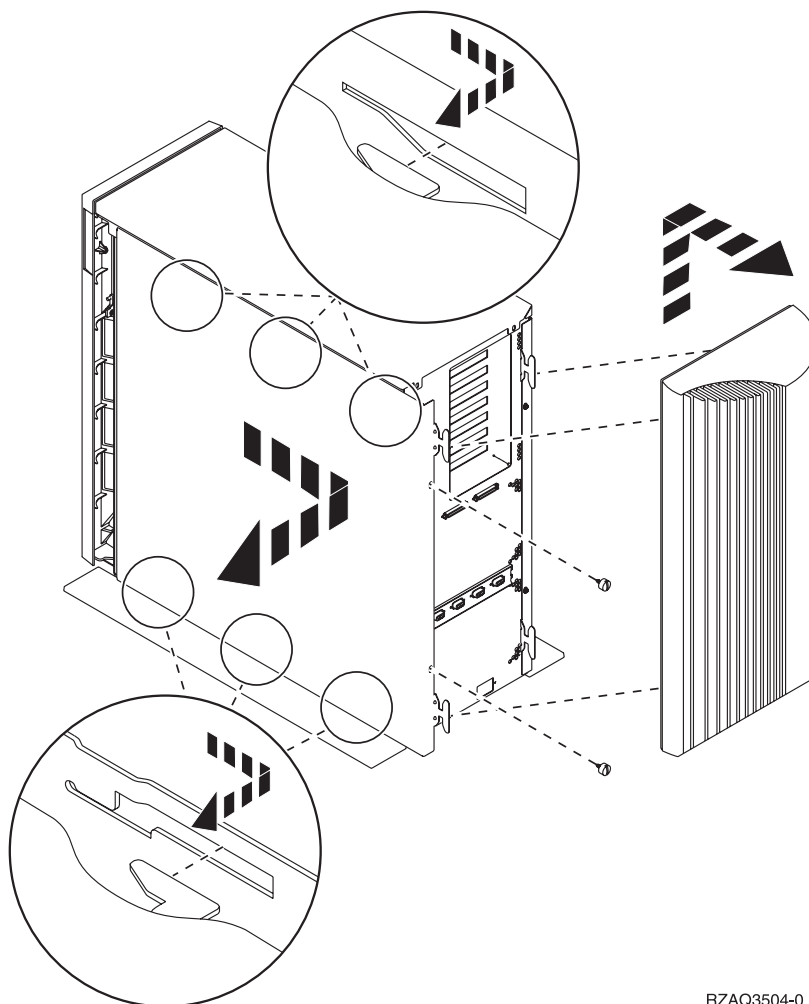


RZAQ2560-0

側面カバーの取り外しについては、20 ページの図 6 を参照してください。

5075 背面カバーと側面カバーの取り外し

- __1. 22 ページの図 7 は、背面カバーを持ち上げて外す方法を示しています。
- __2. 22 ページの図 7 は、つまみねじを緩め、カバーが止まるまで背面側に押し込んで側面カバーを取り外す方法を示しています。カバーを引き出します。



RZAQ3504-0

図7. 5075 背面カバーと側面カバーの取り外し

270 システム装置または 5075 拡張タワーのカード位置

1. 23 ページの図 8 は、270 システム装置のカード位置（背面図）を示しています。

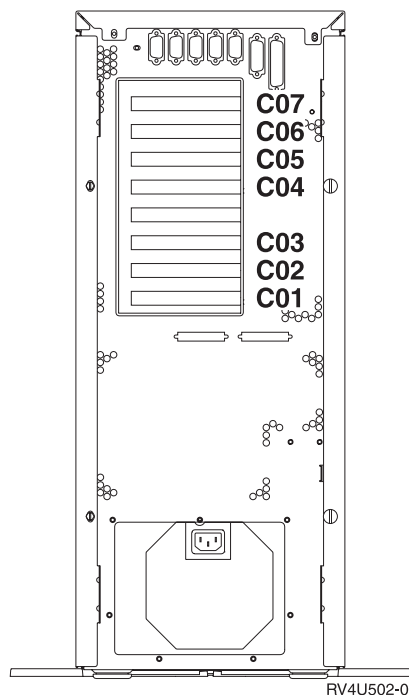
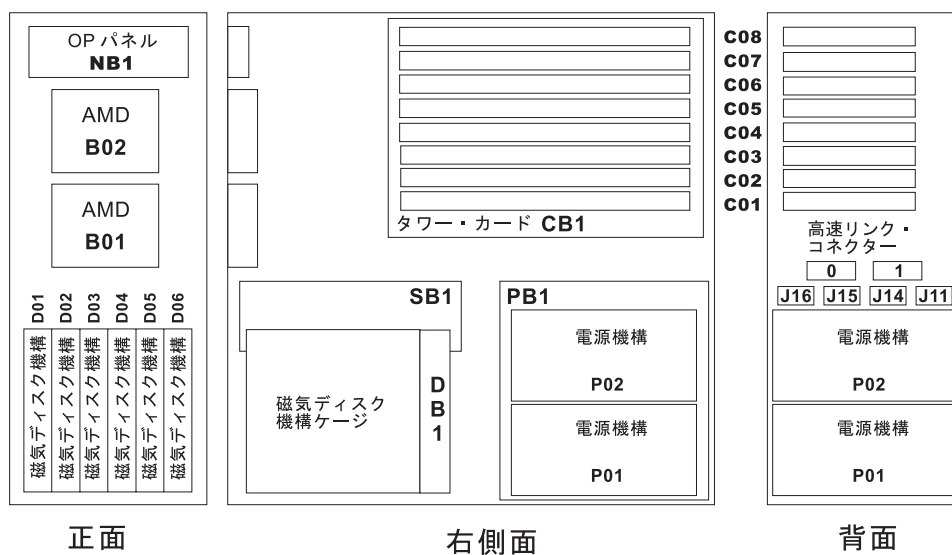


図 8. 270 システム装置のカード位置

2. 図 9 は、5075 拡張タワーのカード位置 (側面および背面図) を示しています。



RZAQ2500-4

図 9. 5075 拡張機構のカード位置

システム装置カバーの取り付け

- 1. リスト・バンドを取り外します。
- 2. 24 ページの図 10 は、上端および下端のタブをそろえてシステム装置の側面カバーを取り付ける方法を示しています。前方に押ししてすべてのタブがスロット

トに入るようにします。カバーが止まるまでシステム装置の前面側にスライドさせ、ねじを取り付けます。

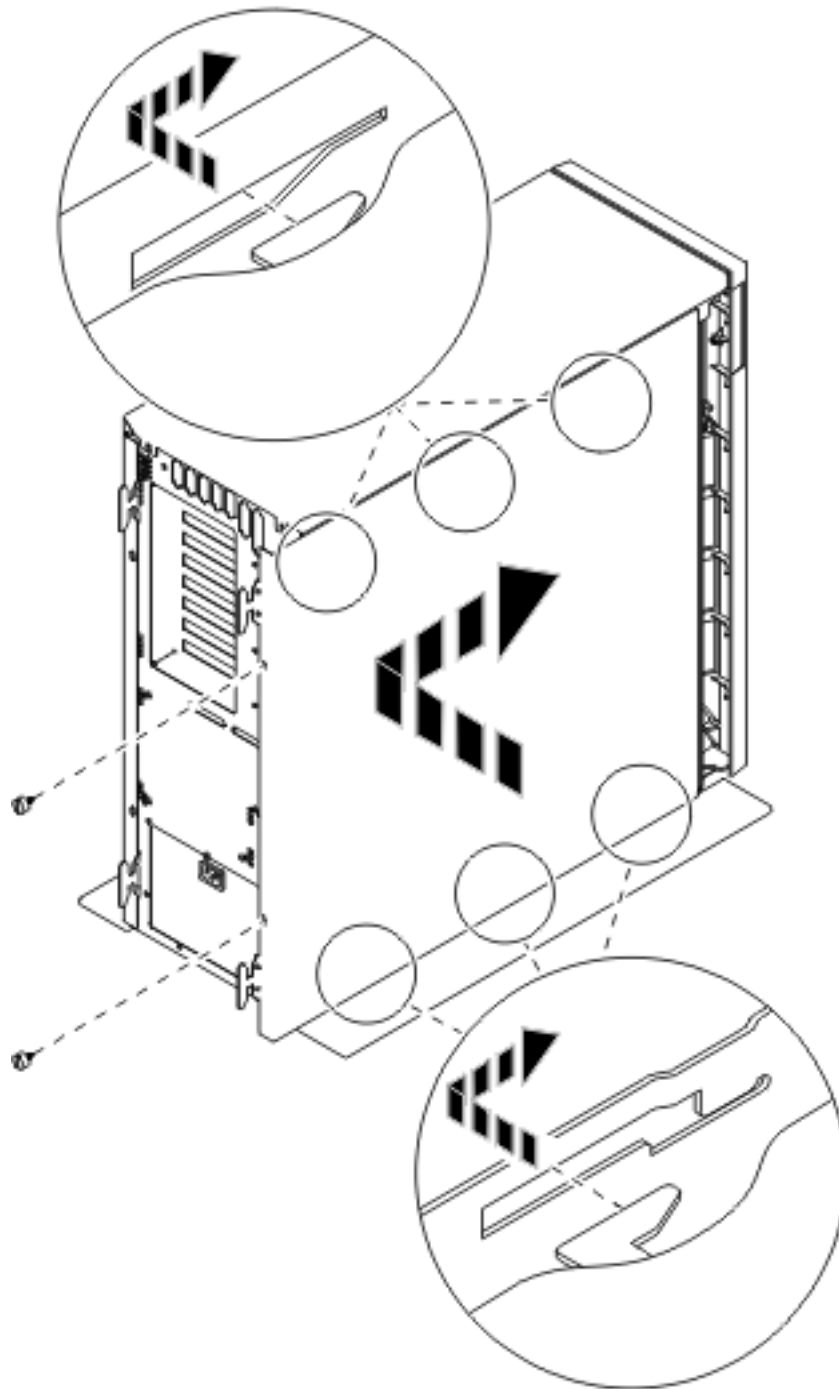


図 10. システム装置の側面カバーの取り付け

__3. システム装置の背面カバーがある場合は、それを取り付けます。

— 4.

危険

電源コンセントの配線に誤りがあると、システムまたはシステムに接続されている装置の金属部分に高い電圧がかかり危険になりかねません。感電事故防止のため、電源コンセントを正しく配線しコンセントの接地端子を正しく接地する（アース）工事はユーザーの責任で行っていただきます。(RSFTD201)

以下の電源コードのプラグを電源コンセントに差し込みます。

- システム装置
- システム装置コンソール

注: この時点でシステム装置の電源をオンにしないでください。

— 5. すべての接続装置 (印刷装置や表示装置など) のプラグを差し込み、電源をオンにします。



Printed in Japan